

沖縄県保険医協会会員数  
832名  
(8月1日付 現勢)  
全国保険医団体連合会会員数  
106,914名  
(8月1日付 現勢)



発行所 沖縄県保険医協会  
〒902-0061 那覇市古島2-28-2  
佐辺ビル103号  
TEL (098) 894-9579  
FAX (098) 894-9589  
https://okinawa-hk.com  
発行人 高嶺 朝広  
年間購読料1800円(会員の購読料は会費に含む)



### 第36回定期総会

2023年度活動のまとめと2024年度活動方針などを決定いたします。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

【日時】8月31日(土)午後7時~8時  
【場所】保険医協会事務所/  
オンライン(ZOOM)  
QRコードからお申込み ▶▶▶



### 白馬八方池

八方池は標高2,060mで中部山岳国立公園にあります。長野県白馬村からゴンドラとリフトを乗り継いで、1時間半のトレッキングで行けます。晴天の日には白馬三山(白馬槍が岳、杓子岳、白馬岳)を鏡のように映す絶景スポットです。定年後、夏は登山に冬はスキーにと夢中になった頃の写真です。

とよみ生協病院 医師 原国 政裕

## 風弾

初めての入院

その日は、梅雨の合間の曇り空、湿度が高く蒸し暑い日だった。屋根に茂ったつるバラを刈り

取った後片づけに取り掛かった。ごみ収集車に回収させるためには枝の葉を落とす1メートル程に揃えなければならず、意外に労力がかかる。3時間ほどぶっ続けに作業をすると右足に異変を感じ、踏ん張りがきかず転びやすくなった。疲れだろうと作業を中止したが、翌朝、右半身の軽い痺れと足の症状が取れないので病院を受診。MRI検査の結果、延髄外側梗塞と判明。観察室へ。娘からは延命治療を望むかと聞かれ重篤さを悟ったが、これまでの人生に悔いはなく覚悟はできていると伝える。事前に様々な情報を記した機器のパスワードは教えてある。

そこでは大声で喚くもの、幼児の泣き声、入院できずに不満を漏らすもの、付添人の家庭事情も漏れ聞こえてくる。多様な人間模様が垣間見える。入院は4人部屋だがテレビの音夜を徹し音を立てる者、軒の合唱およそ静謐な療養環境には程遠く、急性期病棟こそ個室が必要では? 10日間の退院間際に始終大声を出す同室者がコロナ罹患と判明濃厚接触者に。2日後に感染。5日間抗ウイルス薬服用。難なく回復したが泣きつ面に蜂だった。

リハビリに励み、歩行に軽度の障害だけが残ったのが、せめてもの幸い。それにしても人間ドックも定期的に受け、脂質や血圧も良好で体調管理には十分留意していたのに、まさか私がとの思い。「万事塞翁が馬」、己を知り天命を待ちたい。

M.T

# 沖縄県医師会 田名毅新会長を表敬訪問

7月25日(木)、高嶺朝広会長、仲里尚実理事が県医師会館を訪れ、6月20日に県医師会新会長に就任された田名毅会長を表敬訪問した。

はじめに高嶺会長、仲里理事から新会長就任に対しお祝いの言葉が述べられ、直近のコロナやインフル流行により再び医療現場がひっ迫している状況について意見交換した。その中で、

求めた。  
懇談は終始和やかな雰囲気であり、最後に、県民医療にかかる課題解決のため相互協力していくことを確認し終了した。



左から保険医協会高嶺会長、県医師会田名会長、保険医協会仲里理事



# 抄論

## 終わっていない新型コロナウイルス感染症との闘い

副会長 山田 護

昨年5月から新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)は5類に分類され、インフルエンザと同等の扱いとされた。それまで院内トリージや処方に対して、特別な扱いの診療報酬も段階的に削除された。しかし、コロナ感染症の患者数はさほど減少することなく、6月から7月にかけては昨年の夏を思わせるような患者数の増加を見た。北部地区の発熱外来を行っている15医療施設は連日医師会事務局にネット上で陽性患者数の登録を行っている。それによると7月の陽性患者数は1600名に登る。次第に減少傾向

にあるが、旧益を控えているため今後の動向に注視する必要がある。当院でも、事務員1名、看護師1名が感染し、1週間休ませた。他の職員にかかる負担は大きくなる。隔離期間(自宅療養期間)は5日間とされているが、コロナ感染症の場合は1週間後でも30%は感染させる可能性があるといわれている。よって最低1週間は休ませ、出勤時に抗原陰性を確認している。

料IIに移行した。5月号に会員の田仲秀明先生が今回の改定について投稿され、その理不尽さに怒りの声をあげられている。全く同感である。一人一人の患者さんに、生活習慣病療養計画書を渡すために、身体測定・バイタル測定など、これまでよりも問診・診察に多くの時間が割かれている。この間に発熱患者の電話問診・検体採取結果説明と処方を行わなければならない。患者さんの待ち時間は長くなるばかりである。

急性期病院や介護施設では、いまだにクラスターが見えられ、一般診療を圧迫し、救急医療もしばしば逼迫している。10月からはインフルエンザ、コロナの個別予防接種が開始される。コロナワクチンについては、接種価格が約16,000円程度になりそうだ。厚労省や県医師会は接種を推奨しているが、自治体の補助なしには、インフルエンザに比べて接種希望者は少なくなると予想される。まだまだ終わらないコロナ感染症との闘い、国民の健康を守るためには、国、自治体の積極的支援が必要である。



第1部は「こどもから高齢者まで全世代の生きる権利として社会保険を確立しよう」伊藤周平氏記念講演同時開催

第1部は「こどもから高齢者まで全世代の生きる権利として社会保険を確立しよう」と題し、講師の伊藤周平氏(鹿児島大学教授)による記念講演があり、コロナ禍等での医療ひっ迫、社会保障の歳出削減と軍事費拡大の財源問題、税制改革と社会保険改革の方向性などの厳しい情勢を指摘し、現在の社会保障を転換させていくためには署名運動を続けていくことの大切さ、世界の視線や各国の動きも重要だと語り、世界の状況とも比較しながら今の日本の現状を多くの国民に知らせる必要性に言及し、今後の社会保険運動を前進させる上で貴重な講演となった。第2部では総会議事に移り、県知事メッセージ紹介後、議事に入った。



報告が行われた。また、4つの地域社保協からも意見が出され、活発に意見交換が行われた。最後に議案は一括採択され、終わりのあいさつでは高嶺朝広副会長から社保協の存在意義、署名活動の重要性が語られ、これまでの運動の成果を強調し、今年度も社会保障制度拡充に向けて取り組んでいくことを確認し、終了となった。昨年に引き続き高嶺会長が県社保協副会長に留任された。

●全国保険医団体連合会では、「2024年度新点数検討会」の動画を「研究会交流サイト」でアーカイブ配信しています。



URL: <https://hodanren.doc-net.or.jp/kenkyu/>  
※動画を閲覧するためには、「保団連情報サービス」への登録が必要です

●沖縄県保険医協会のホームページからも厚労省の疑義解釈資料をご確認いただけます。



### 歯科研究会のご案内

## 「2024年診療報酬改定の整理と再検討」

日時: 8月25日(日) 14:00~16:00

講師: 田辺 隆 氏(タナベ歯科医院院長)

参加方法:

【会場】沖縄県市町村自治会館4階会議室(那覇市旭町)

※事前申込必要。定員に達し次第、申込受付終了。

【WEB】※ZOOMウェビナー事前登録→

会費: 会員無料/非会員8,000円

(当日入会の場合は無料)



## LINE公式アカウント 友達募集中!



QRコードからご登録ください。⇒⇒⇒  
学習会などの各種ご案内をお送りします。

### 保団連第1回代議員会開催 保険証を残す運動推進と診療報酬の 再改定を求める

6月30日、保団連第1回代議員会が開催され、全国から代議員111名、保団連役員、事務局が東京都センターホテル会場と各地からオンラインで参加し、当会からはオンラインで高嶺会長、東京会場に座副会長の両代議員が参加した。

が紹介され、閣議決定された骨太方針2024では医療介護の歳出抑制が継続となり、今次診療報酬マイナ再改定の再改定も含めて社会保障充実を強く求めていく方針が示された。

討論では各協会から137の発言通告が出され、マイナ保険証強制問題、保険証の存続を求める取り組み、診療報酬改定にかかわるベースアップ評価料、生活習慣病管理料の問題点、医薬品の供給不足、働き方改革、

のめり」のテーマで戦争に向かっている世界情勢に警鐘を鳴らす文書発言が提出された。

最後に代議員会決議を含めた会務報告、2023年度決算、監査報告が全会一致で採択された。

政府は台湾有事を念頭において、宮古島・石垣島などの先島諸島5市町村の

約12万人を福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島・山口に避難させる案をだした。1日100便の航空機と船を使い最短6日間

の田岡俊二氏の講演、台湾からもシンポジストを招聘し沖縄・台湾シンポジウムを企画している。当協会も現地実行委員会に加わり、準備をすすめている。

### 診療雑感 66 嚥下に関するお話②



オリブ山病院 石田 肇

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会のホームページによれば、「飲み物や口で咀嚼された食べ物は、嚥下(飲み込み)と呼ばれる反射運動

によって、咽頭(のど)を通過し、食道、そして胃へと送られていきます」と書かれています。嚥下内視鏡検査というのがあり、内視鏡を外鼻孔から挿入し後鼻孔から鼻咽頭へ、そこから下降して、喉頭を上から眺める位置に置いて、嚥下の状態を観察、評価します。当院でも盛んに行われています。

以前の職場で、歯科口腔外科の診療範囲を決める必要があり、難儀しました。何か記録が無いかと探したところ、見つかりました。

1996年に日本耳鼻咽喉科学会(当時)、日本形成外科学会及び日本口腔外科学会が集まり、厚生省健康政策局長(当時)のもとに集まり、検討会を実施しています。その結果、歯科口腔外科の診療範囲は、原則として口唇、頬粘膜、上下歯槽、硬

上記の嚥下内視鏡検査についても、2020年に日本耳鼻咽喉科学会(当時)及び日本歯科医師会の連名で、「摂食嚥下障害診療における耳鼻咽喉科と歯科の連携」に関する提言が出ています。それによると、「耳鼻咽喉科医師と歯科医師がそれぞれの専門分野を担当し

携へて協力する」となっています。時代を経て、診療範囲を決めると言うよりも、連携が大事と言う立ち位置に変わってきている

ことが分かります。最近、2024年2月19日の医学界新聞において「リハビリテーションにおける医科歯科連携、リハ・栄養管理・口腔管理の三位一体実施を推進する」と言う座談会が掲載されました。

これを実施することで、患者のADL等予後の改善につながるということが明らかになってきたとされています。当院では、訪問歯科診療はありますが、摂食嚥下に関しては、関与がなく、言語聴覚士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、看護師及び医師らが誤嚥を防ぐためにカンファレンスを行っている状況です。2024年の診療報酬にも掲載されましたので、今後、当院でも三位一体を進めていければと思います。



### 口頭発言 第34回反核医師のつどい in 沖縄 代議員 高嶺 朝広



政府は台湾有事を念頭において、宮古島・石垣島などの先島諸島5市町村の

約12万人を福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島・山口に避難させる案をだした。1日100便の航空機と船を使い最短6日間

命どう宝の島から東アジアそして世界の平和を希求する」をテーマに、台湾有事問題についてジャーナリスト

の田岡俊二氏の講演、台湾からもシンポジストを招聘し沖縄・台湾シンポジウムを企画している。当協会も現地実行委員会に加わり、準備をすすめている。

### 文書発言 世界は前のめり

代議員 座覇 修好

フィンランドに続きスウェーデンもNATOへの加盟を決定した。バルト海を抑えられロシアも身動きが窮屈になるものと思われる。またスウェーデンの自動車メーカーSABABが本格的に軍需に関わるドローンや戦闘用ロボットの開発に

加担したり停戦を呼び掛けたりしている。更にG7においてロシアへの制裁包囲網で凍結した資金運用により捻出した500億ドルをウクライナ支援にあて、アメリカはウクライナと10年間の安全保障協定を宣言した。ウクライナもロシア本国への通信施設の破壊攻撃に踏み切った。本質的に全てにおいて殺傷される人々があり、その裏で金儲けをしてほくそ笑んでいる輩がいるということ。

以前にも述べたが、日本でも過去に東アジア反日武装戦線の演習について言及。アメリカも巨額の支援でイスラエルのガザ侵攻に

生産と技術革新、更なるAIの開発が行われ、人間は戦地に赴く事なく殺戮を繰り返すことが可能である。まさに軍産複合体、拝金主義花盛りである。

**加入申込受付中!**  
「休業保障共済保険」  
「グループ生命保険」  
「団体所得補償保険」  
「団体サイバー保険」  
\*詳しい内容や資料請求のお問合せは、保険医協会事務局まで。

**新聞投稿募集中!**  
沖縄保険医新聞では下記の原稿を募集しています。ご投稿して頂いた会員にはクオカード3千円分を贈呈します!ぜひ、ご検討ください。皆様のご応募をお待ちしております。  
①「診療雑感」...日常診療での出来事や、感じていることなど  
②「書評・映画演劇音楽絵画・エッセイ・写真」...テーマは自由  
お気軽に協会事務局までご連絡ください。

**会員紹介推進キャンペーン**  
未入会の先生を紹介しご入会頂くとクオカード3,000円分を贈呈!!是非、友人・ご家族等お知り合いの先生をご紹介下さい!  
※FAXまたはお電話にて協会事務局までご連絡下さい。

**事務所移転のお知らせ**  
沖縄県保険医協会は、5月20日より事務所を移転しました。よろしくお祈いします。  
新事務所  
◆住所: 〒902-0061 那覇市古島2-28-2 佐辺ビル103号  
◆電話: 098-894-9579  
◆FAX: 098-894-9589  
モノレール「市立病院前駅」から徒歩5分!

一般寄稿 連載3

まさに「ボランティアは何でもありやー」  
災害ソーシャルワーク・ボランティア30年

社会福祉士/防災士 稲垣 暁



◎プロフィール 稲垣 暁  
神戸市出身。阪神淡路大震災被災者として地元でボランティアを10年間続けた後、勤務していた新聞社を退職し社会福祉士に転身。震災10年の節目となるその年、家族が沖縄に縁があったことから沖縄に転居、命を守るソーシャルワークが専門の社会福祉士として活動する。本土被災地を繰り返し訪れ、学んだことを沖縄に伝え、地域と共に実践する。

1995年の阪神淡路大震災は、「ボランティア」が市民に定着するきっかけになりました。それまで経済的・時間的に余裕がある主婦が行うイメージだったのが、若者を中心に勤労世代から高齢者まで幅広い男女が神戸に来ました。お隣の大阪で、若い世代に人気があったFM局が「君はもう神戸に行ったか？」と呼びかけるなどしたこともあり、この年のボランティア延べ人数は神戸市の人口と同じ140万人。「ボランティア元年」と呼ばれる所以です。  
ボランティア経験のない人ばかりだったことが、被



JR摂津本山駅前で目的地に急ぐ若者ボランティアたち。周囲の建物は1階が完全に倒壊している。



高齢者との交流で仮設住宅を訪れた中学生。私はこうして来てくれた人を被災者につなぐボランティアを行った。

私が見た活動で覚えていたものをざっと書き出すと…自転車バンク修理、引っ越し手伝い、入れ歯洗浄、倒壊家屋での捜しもの、畳支援、散髪、被災者にニーズの聞き取り、赤ちゃんミルク支援、子どもと遊ぶ、法律相談、子どもや高齢者にネイルサービス…。すべてが必要とされ、すべてが喜

ばれました。被災地NGO協働センターの村井雅清さんが「ボランティアはなんでもありやー」という至言を残したとおり、まさになんでもありでした。  
若い年代が大半だったため、普及し始めていたパソコンでの情報管理や、電話回線による「パソコン通信」での支援方法を彼らが生み出しました。入力された無数の情報の検索やソートが簡単になり、利用者はまだ多くないものの遠隔者との情報共有や収集が可能になりました。現在の社会システムの基本が、震災を機に進展しました。

29年前の今頃は、夏休みを利用して全国から多くの人が神戸で活動した記憶が鮮明に残っています。医療関係者も含め、沖縄からも多くの人が来てくださいました。昨日のことのように思いだされ、涙



店舗が全壊し家族と従業員を失いながらも路上で営業し、避難所に無料で新聞を届けるボランティアを行う新聞販売店。

が出てきます。私たち被災者も、動ける人から自分ができることで地域貢献に動き出した時期でした。  
役所など一部には「迷惑ボランティアがいて困った」という話をする人もいますが、そもそも迷惑行為はボランティアではなく、言葉として間違っています。自分で判断し、自分で考えて動いて、その過程で多くの失敗もついでにまわりながらのトライ＆エラーの連続でした。現在の「失敗は許されない」空気がある管理型災害ボランティアとは、一線を画するものでした。言い換えれば、そういうことが可能な時代であったといえます。

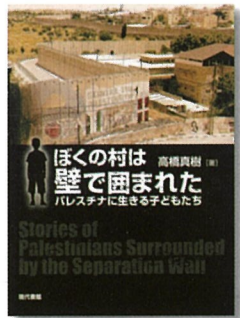
本書はパレスチナ問題についてわかりやすく書かれた本です。2017年に刊行されました。昨年からイスラエルによるガザ侵襲以前です。現在ガザで起こっている事態についての解説はありません。しかし、なぜ今の事態になっているのかは、本書を読むとよく理解できます。パレスチナ問題を知らず素晴らしい入門書です。まえがきは、イスラエルによる侵襲直後に書き足されています。そこにはこうあります。「日本でパレスチナ問題は『聖地をめぐる宗教戦争』や『憎悪の連鎖』が問題」と説明される

ことがありますが、多くの場合それは誤解に基づいています。パレスチナ問題を理解するためには、現地で暮らす人々の生活実態をもとに、単純な図式ではなく、多面的に具体的に理解しなければならぬということ。そういう姿勢で書かれた本書は、イスラエル建国とパレスチナ難民の発生、イスラエル建国の背景とその歴史、繰り返される戦闘と国連や国際社会の動き、パレスチナ自治区のイスラエルによる占領の実態などが解説されています。といっても、歴史教科書のような解説ではなく、著者が直接出会った多くの人の声を通して、長年にわたる占領・封鎖の過酷な実態が伝わるように書かれています。  
「非暴力で闘うパレスチナの若者たち」という章では、非暴力で社会を変えようとする声も聞かれます。

うとしてきたNGOパレスチナ・ビジョンが紹介されています。パレスチナ・ビジョンはエルサレムに住む10代の若者のための教育プログラムです。長く続く占領のため自暴自棄・暴力的になりがちな若者に、知識とスキルを提供し、非暴力で闘う大切さを伝えていきます。  
「作文・演劇・映像・英語などのスキルを磨き、思っていることをうまく表現できるようにになった若者たちは、自信をもって社会的・政治的なキャンペーンを立ち上げることができるようになります」。このNGOの創設者ラミ・ナセル・エディンさんのインタビューが掲載されていて感動的です。学びと自己実現により「パレスチナ人はテロリスト」というイスラエルのプロパガンダに対抗する力をつけることこそが、占領への有効な闘いであると強調されています。

ラミさんは2002年著者の招きでイスラエルの平和活動家ケレン・アサフさんと来日し、共同で講演をしました。彼らが日本で最初に訪れたのが沖縄でした。沖縄を案内されたラミさんはこう言いました。「あなた、日本にもパレスチナがあるじゃないか」。便利なエリヤを米軍基地が占有している様子を見たり、米兵が犯罪を犯しても罪を問われないシステムを聞いて、自分たちの境遇と重ね合わせての感想でした。著者はこれを受けて「パレスチナ問題は遠いのか？」という問いへの答えはここにありと書きます。

オリブ山病院 横田 泉



共済部だより  
休業されたらすぐに協会にご連絡を！  
2024年7月度休業保障共済保険給付実績(4件)

	口数	入院	自宅療養	給付金額
A 先生	3口	0日	3日	54,000円
B 先生	3口	11日	0日	264,000円
C 先生	5口	0日	50日	1,500,000円
D 先生	5口	0日	61日	915,000円

開業・就業状況、住所変更、勤務先変更などがありましたら、速やかに協会事務局(☎098-894-9579)にご連絡下さい。

グループ生命保険 随時加入受付中！  
個人契約の一般生命保険と比べて保険料が割安です！  
○最高6000万円まで病気・不慮の事故による死亡、所定の高度障害状態を保障します  
○診査はなく告知のみです  
○余剰金が生じた場合には配当金として還元されます  
○先進医療費補償の福利厚生制度あり  
お問合せはお気軽に保険医協会事務局まで。(098-894-9579)

グループ保険 福利厚生制度サービス追加のお知らせ  
この度、2024年4月より、グループ保険にご加入中の皆様がお申込ただけ「福利厚生制度」に新たなサービスが追加されました！対象の先生方へは別途、保険医共済会からご案内が送付されています。  
今回、新たに導入された「N-コンシェルジュ」のサービスは、日常生活でご利用いただける優待特典や、メンタルヘルスに関するご相談対応など、ご家族でご利用いただけますので、是非ご活用ください。

この本に教わった ④  
「ぼくの村は壁で囲まれた」  
高橋 真樹 著 現代書館

本書はパレスチナ問題についてわかりやすく書かれた本です。2017年に刊行されました。昨年からイスラエルによるガザ侵襲以前です。現在ガザで起こっている事態についての解説はありません。しかし、なぜ今の事態になっているのかは、本書を読むとよく理解できます。パレスチナ問題を知らず素晴らしい入門書です。まえがきは、イスラエルによる侵襲直後に書き足されています。そこにはこうあります。「日本でパレスチナ問題は『聖地をめぐる宗教戦争』や『憎悪の連鎖』が問題」と説明される